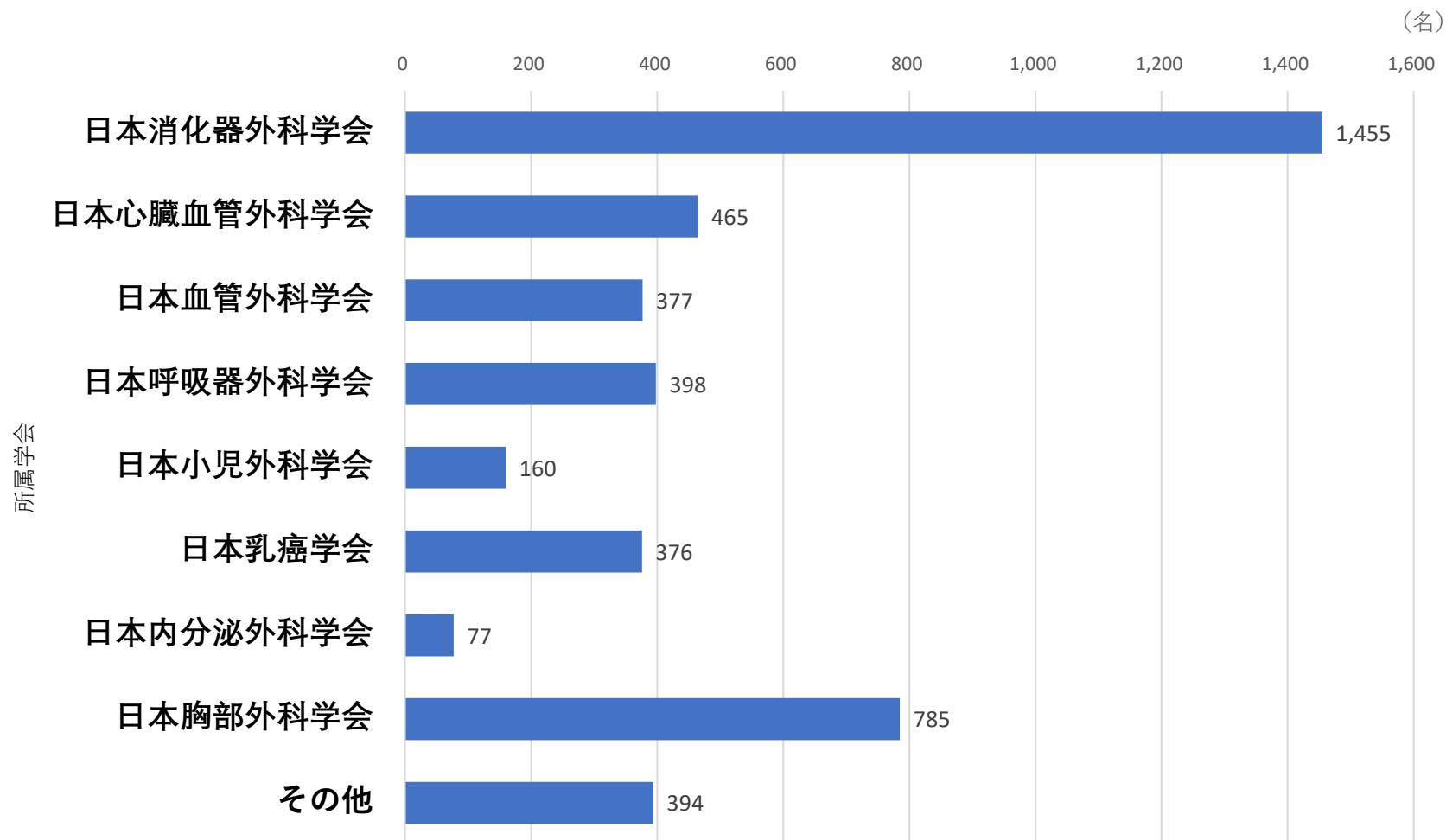


第121回日本外科学会定期学術集会 アンケート調査 結果報告

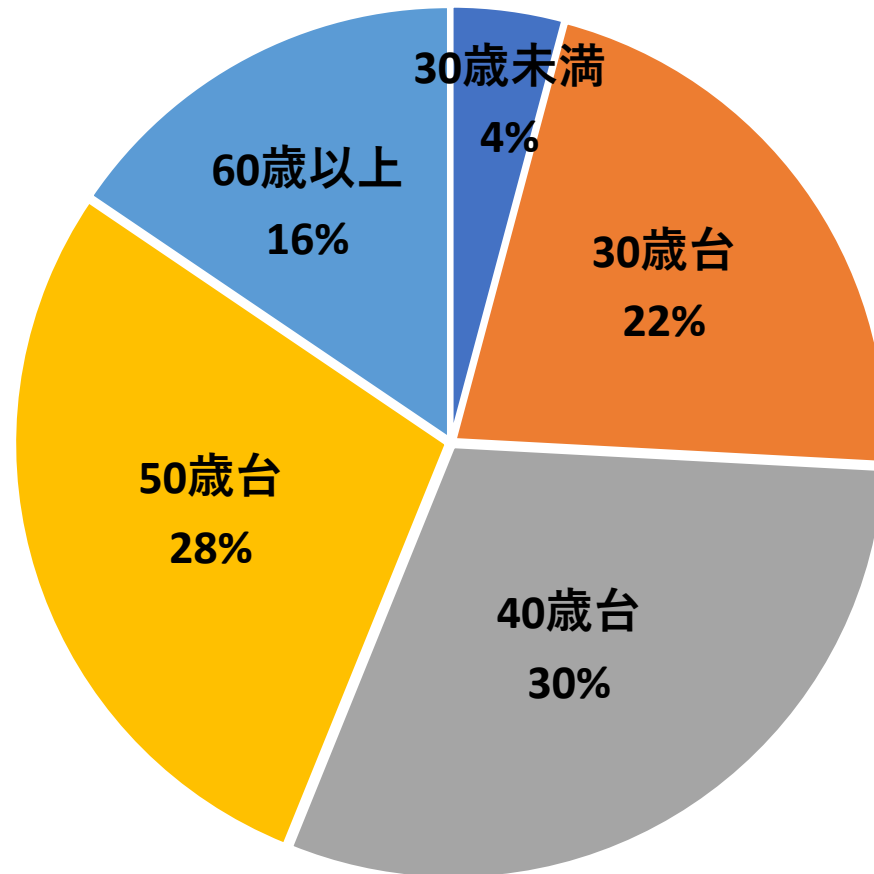
【実施期間】 2021年8月24日（火）～10月18日（月）

【回答者数】 2,596名

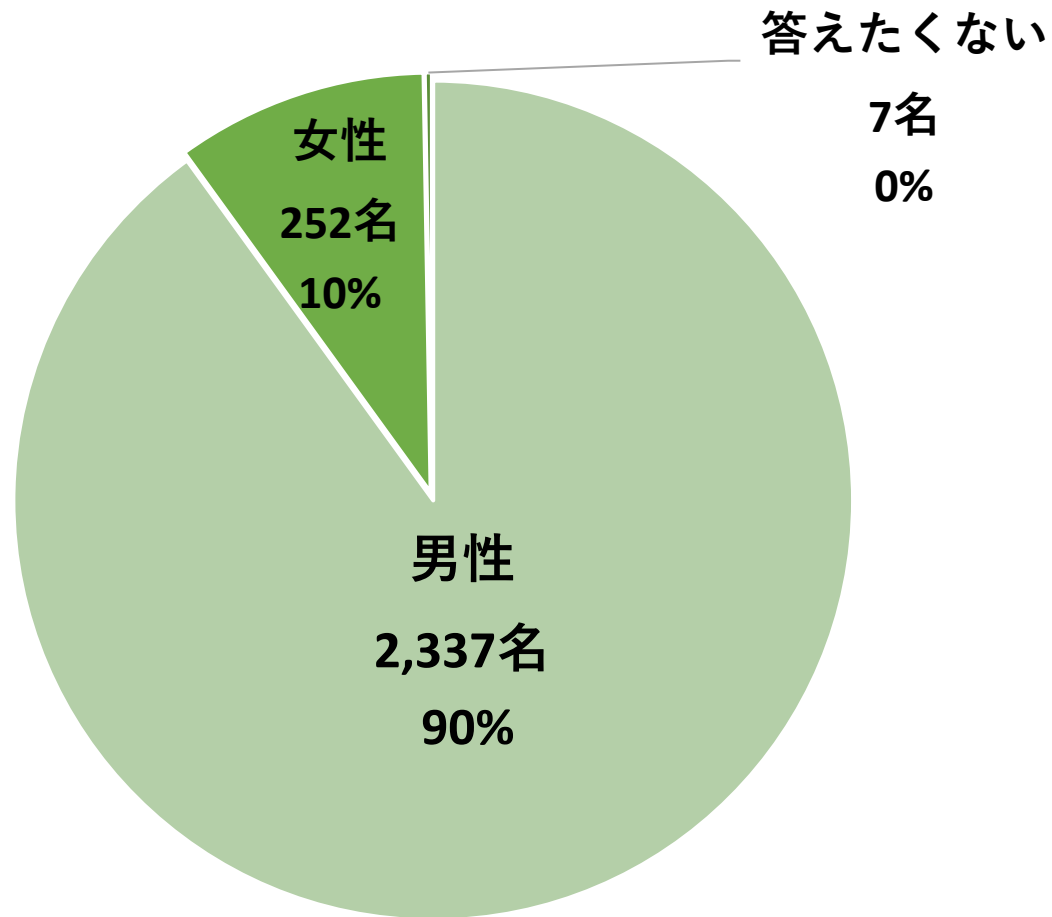
1. 日本外科学会以外に所属している学会を教えてください。（複数回答可）



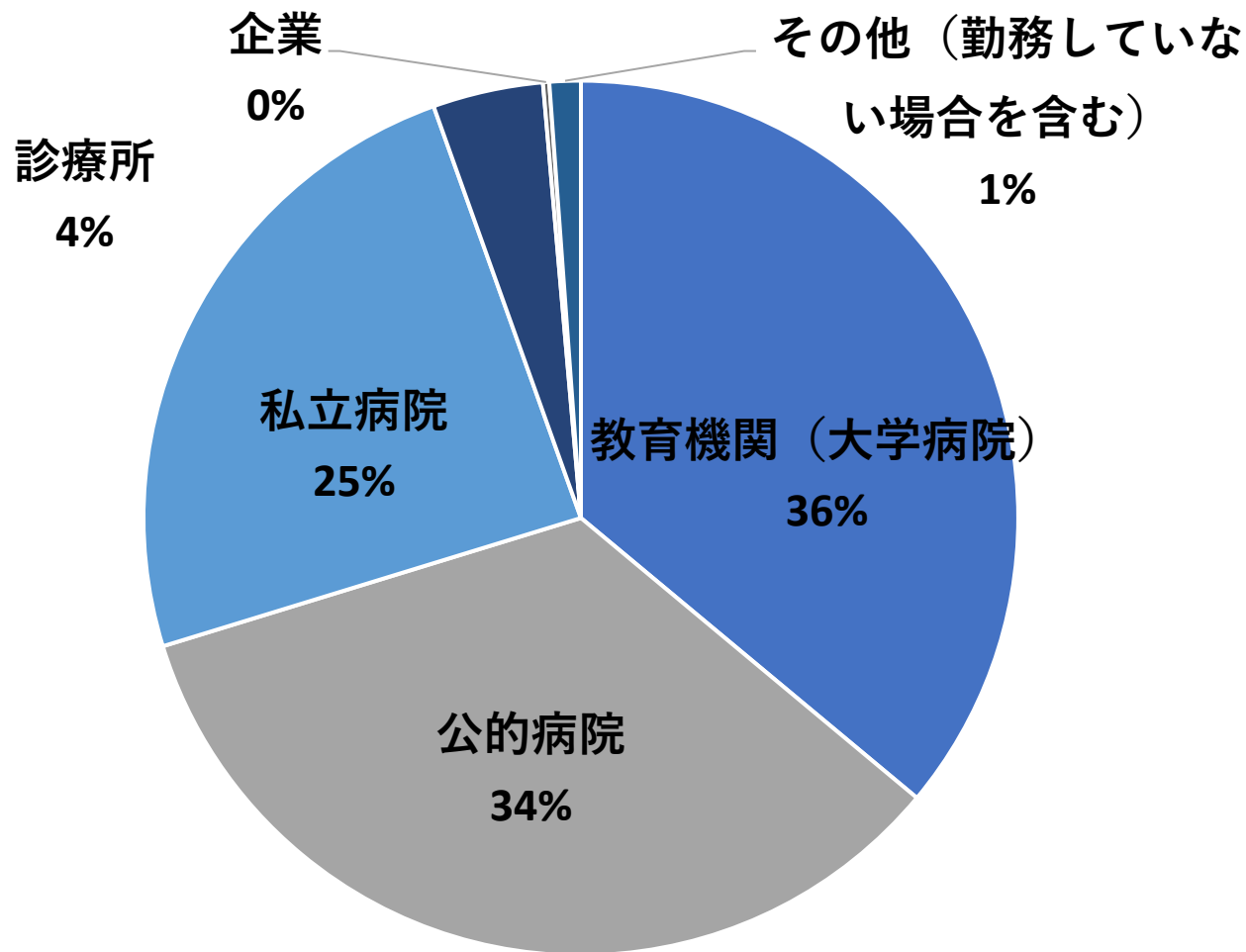
2. 年代をお答えください。



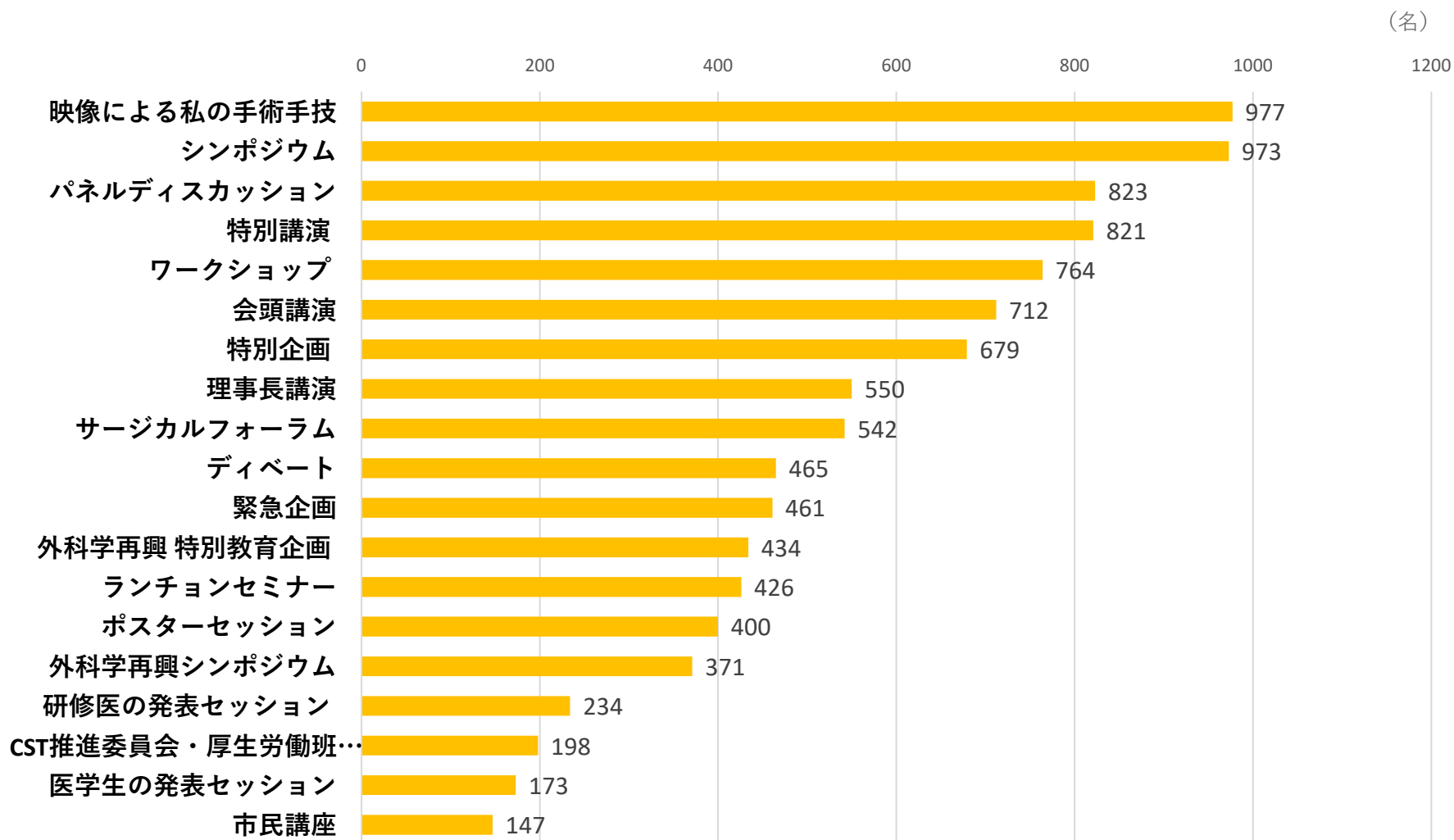
3. 性別をお答えください。



4. 主たる所属をお答えください。（一つだけ）



5. 参加して良かったセッションはどれですか？ (複数回答可)



6. 参加されたセッションについて、改善すべきと感じた点があれば教えてください。（一部抜粋）

【上級演題】

- ディベートのようにtimelyに互いに意見をし合うセッションはWEBでの討論が非常にやりづらかった。
- ワークショップやパネルの演者は現地参加の方が、セッションがスムーズに運ぶように思います。

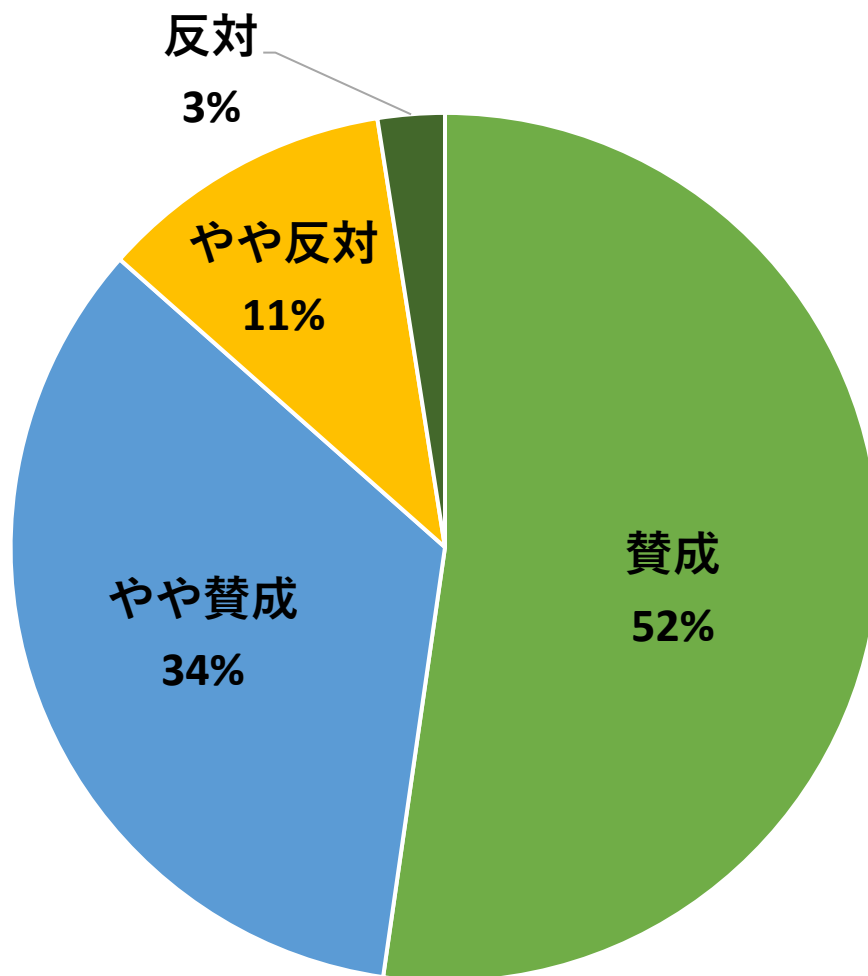
【一般演題】

- zoom形式ではまったく盛り上がりません。録音したpptを使用すると発表時の緊張感がないため、レジデント、研修医、学生の練習にはなりません。

【その他】

- 英語でのDiscussionは深まらないし、上手でない英語では言いたいことがわからない。
- 聴衆がどれくらいいたかわからず、発表した意義を感じにくい。
- 全体的にもっと再教育的な配慮をしてほしい
- 外科学会自体が消化器外科の割合がおおすぎる。

7. オンラインによる学会参加について、総合的な印象をお答えください。



8. オンライン学会による学会参加の 良い点をお書きください。（一部抜粋）

宿泊費、交通費など無駄な経費がかからない。移動時間がない。隙間時間が有効に使える。感染のリスクがない。

普段参加できない先生（女性外科医や若手）が参加出来ること。

診療の休診の日程が事前に把握できる。会場へ行かなくてよいので高齢者にとっては身体的に楽（78才）。

セッションの選択肢が広がる。複数のセッションをオンデマンドで参加できる。

遠隔地にいる場合には、診療面での調整がしやすい。セミナーでは非常に有益な方法とおもいます。

ビデオなど繰り返し確認できる。あらゆる領域を時間をつかってじっくり勉強できる。お金を払っている価値がある。外科医のレベルアップに確実に繋がると思う。

9. オンライン学会による学会参加の 悪い点をお書きください。（一部抜粋）

質疑応答がやりにくく、討論が低調になる。表面的ディスカッションしかできない。

休みが取れないので業務がより
圧迫されています。
勤務時間の合間を縫っての参加
になるため、集中して参加でき
ない。

他の会員とface-to-faceで情報交換ができないこと。
コミュニケーションが乏しい。

臨場感はない緊張感もない
ので経験値の向上が望みに
くい気がする

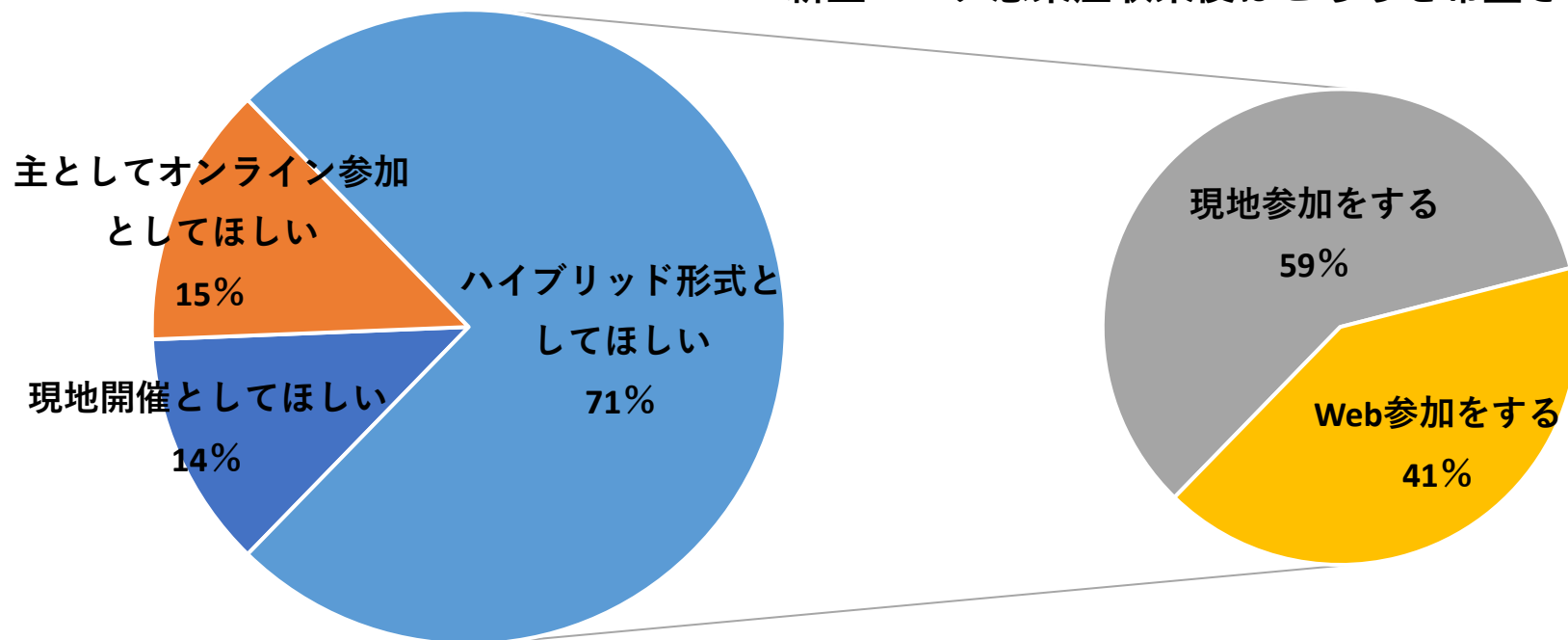
非日常が享受できない。他施設知人との邂逅ができない。
議論に参加しづらい。観光ができない。息抜きができない。

オンライン学会の場合は出張ではなく通常業務となるので、自分が発表するセッション以外見る時間は無いオンデマンドでもわざわざ時間を割いてまで見ない

10. 今後の学術集会について、どのような開催形式を希望されますか。

(ハイブリッド形式希望者のみ)

新型コロナウイルス収束後はどちらを希望されますか

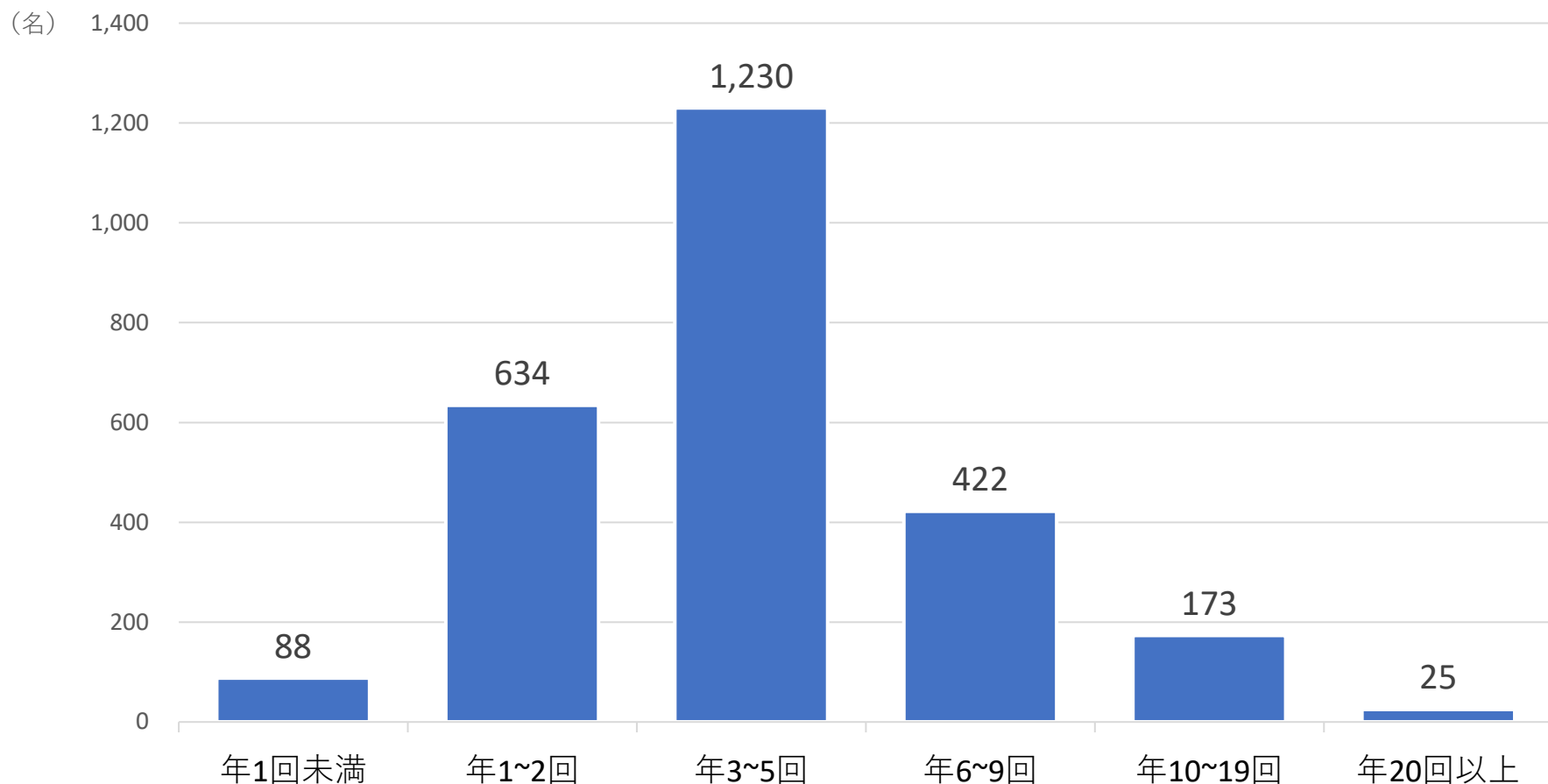


11. 今大会についてのコメント、今後の運営に対してのご要望などがありましたらご記入ください。（一部抜粋）

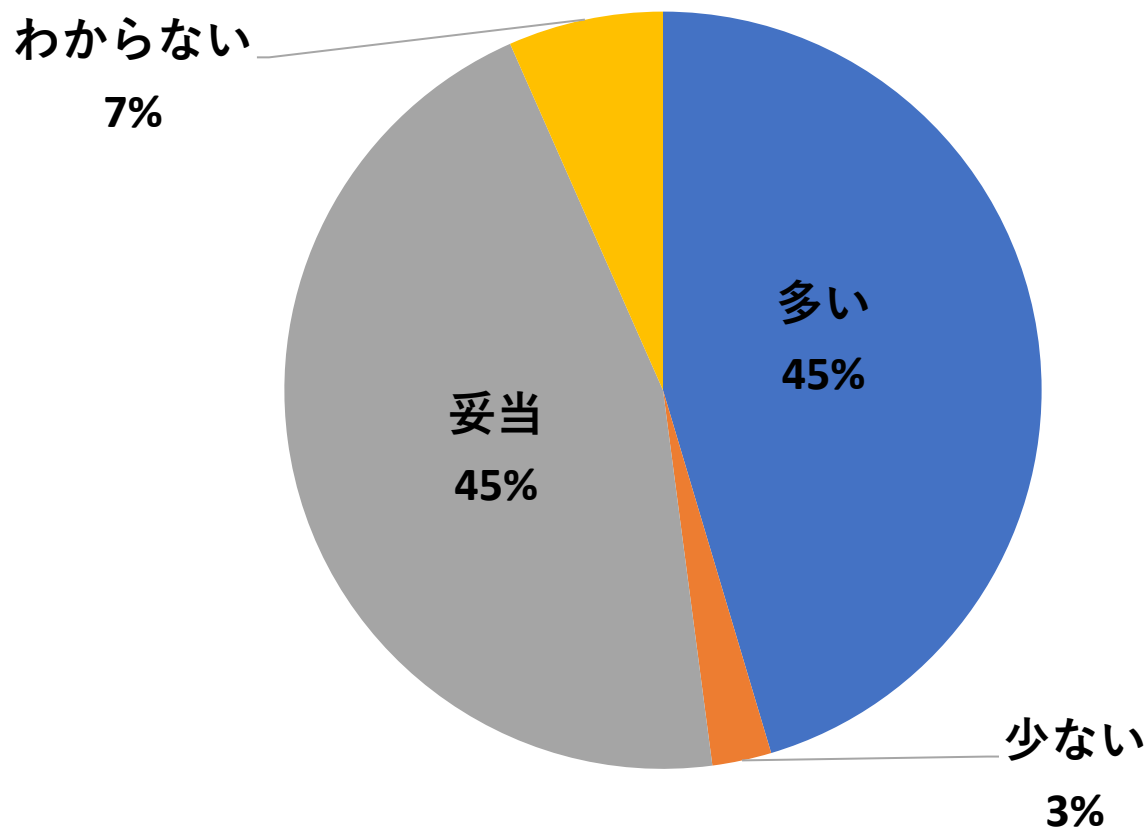
- 学会後も、見たいセクションに参加できてよかった。
- コロナ過の中、素晴らしい総会でした。
- 基本は現地参加とし、コロナウィルス感染拡大、勤務の都合などでやむおえず参加できなときはウェブ参加とする。形式としては状況によってウェブ参加も可能なハイブリッド形式が望ましい。
- 現在は診療所医師なので参加しやすいオンラインを希望します。しかし、自分自身が大学病院勤務していた時なら、現地開催発表を希望したと思います。後輩達にもその場を提供して欲しいと思います。
- ハイブリッド+web開催が種々の学会でも行われており、数も多くなっているように感じますが、合同で開催することは困難でしょうか？
- 是非、サージカルウィークを進めていただきたい。開催時期は年度初めから、すこしずらしてもらえるとうれしいです。

学術集会のあり方に関する アンケート

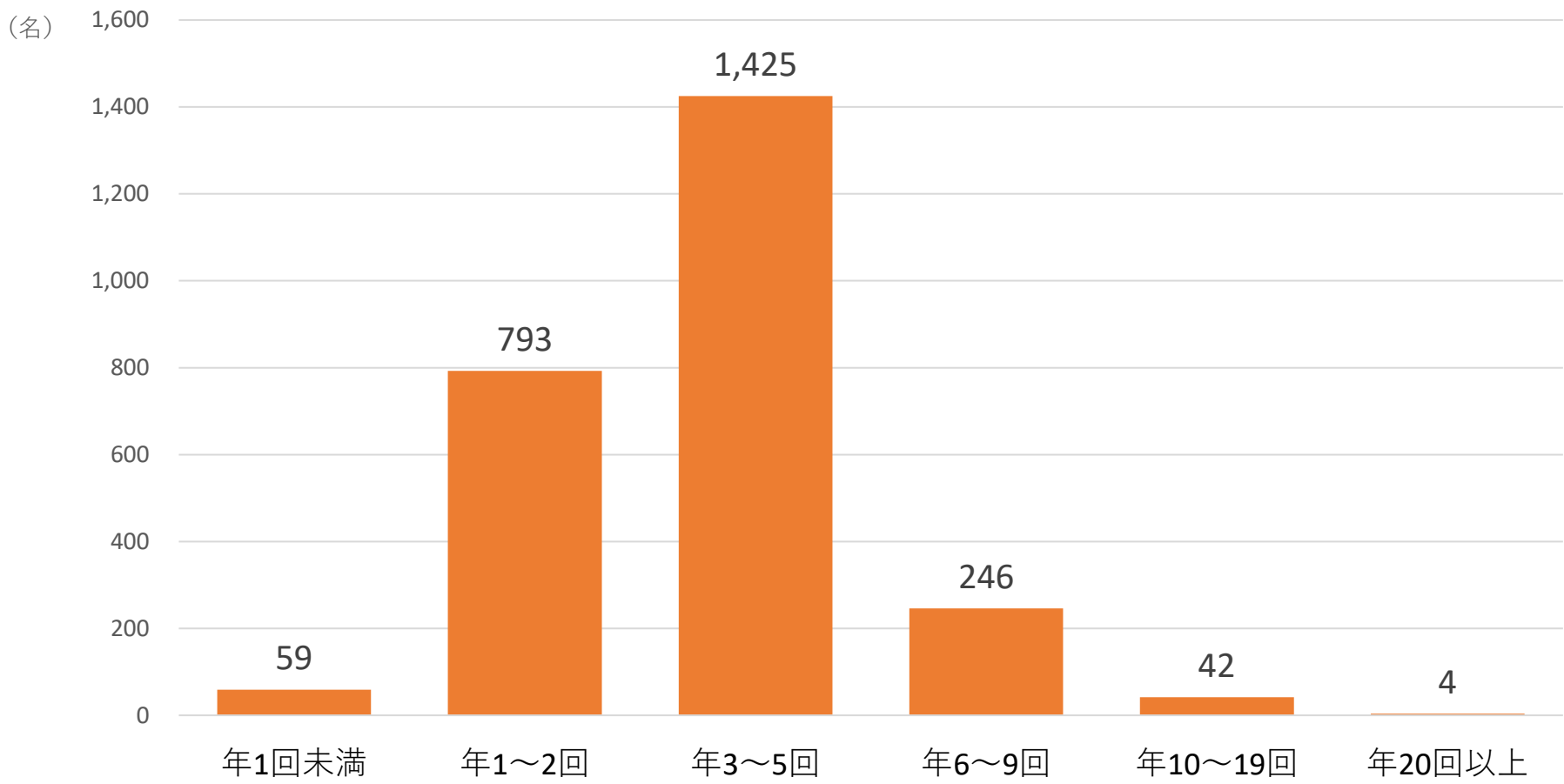
12. 学術集会への年間平均参加回数を教えてください。 (国際学会、国内全国学会/研究会、地方会を合わせて)



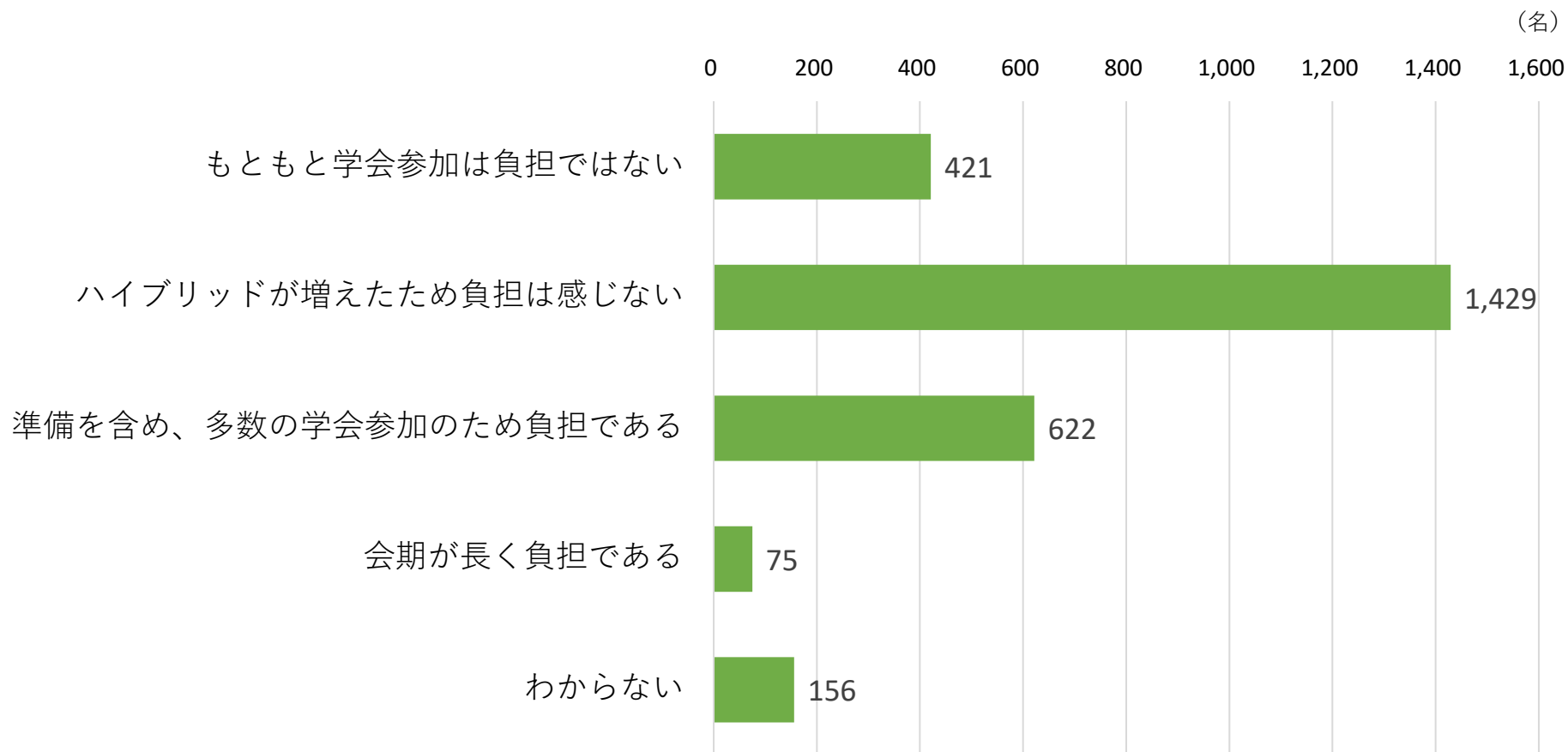
13. 新型コロナウイルス感染症収束後にハイブリッド開催が継続された場合に、現状の学会（学術集会）の回数は多いと思いますか？



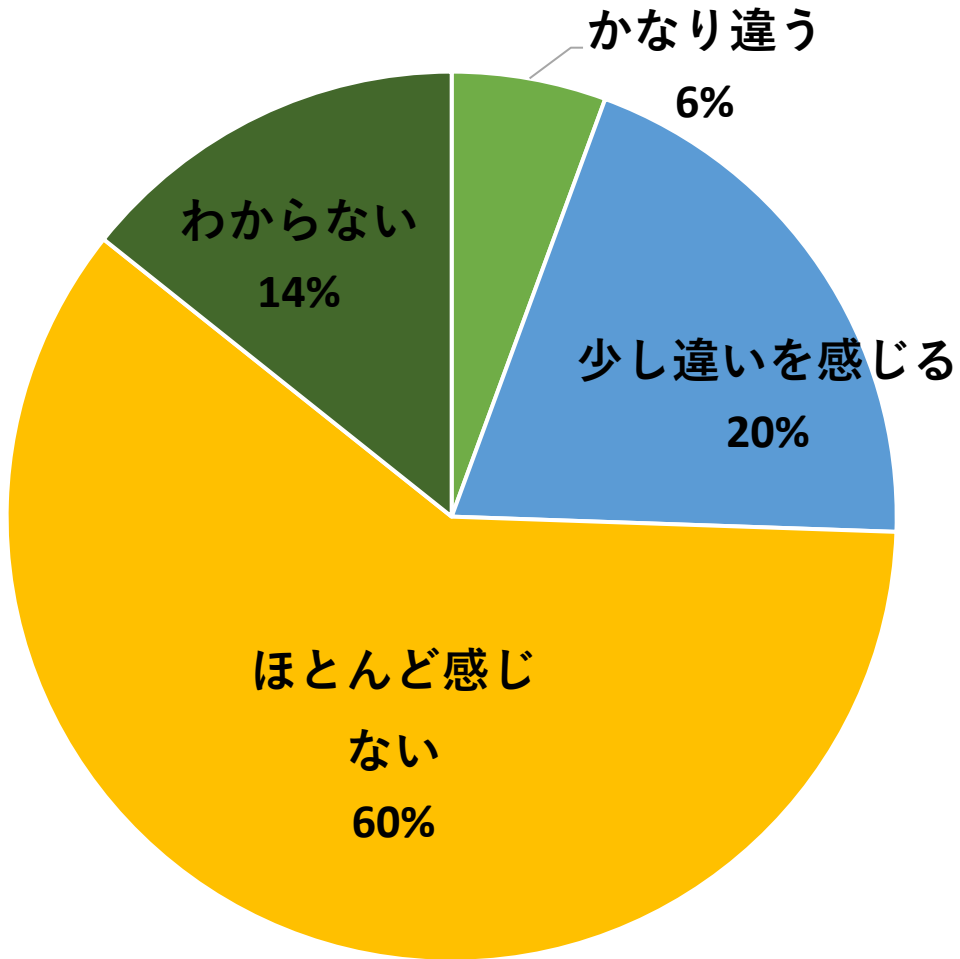
14. 新型コロナウイルス感染症収束後にハイブリッド開催が継続された場合に、年間どれくらいの学会（国内全国規模の学会と研究会）に参加するのが理想的だと感じますか？（国際学会・地方会・地方の研究会を除く）



15. ハイブリッド開催が行われている現状で学会 (学術集会) 参加は負担になっていますか？ (複数選択可)



16.日本外科学会定期学術集会と他の全国規模の学会 総会で議論される内容や形式に違いを感じますか？



16-2. どのようなところに違いを感じましたか？ (一部抜粋)

各々の専門に特化した演題が多い。したがって、専門領域は特化した学会の方が話題が多いが、外科学会は総論的な話も聞ける。

自分の関与するセッションがかなり限定されるので、規模の割に参加する部分が少ない。

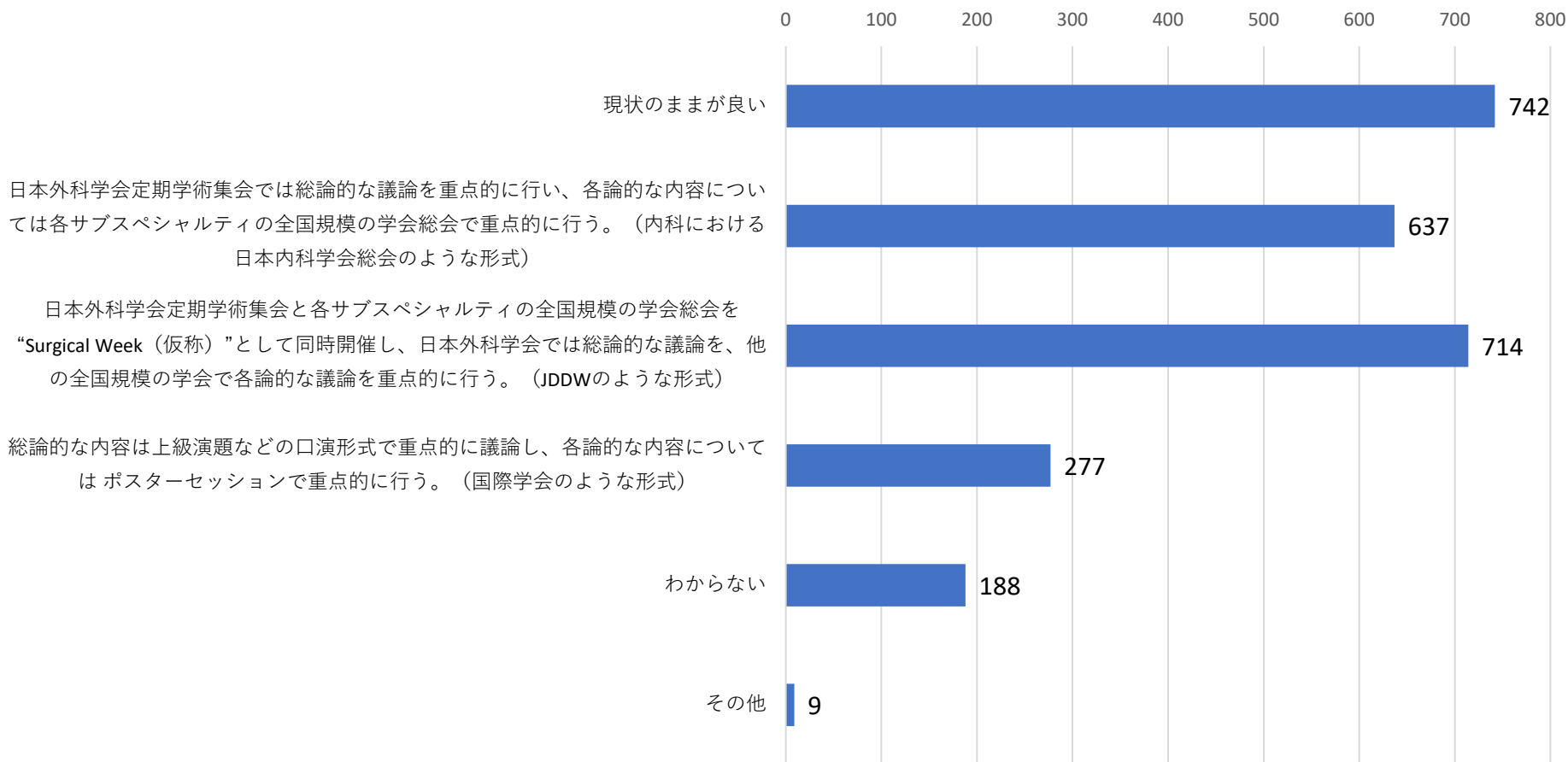
総論すぎて、自分の専門領域の内容がいつも他の学会でみた、きいた内容ばかりでなんの新鮮味もなく面白くない。

心臓血管外科は極狭い範囲を占めるだけとなり、参加が限られる。その一方で、全外科の範囲に関わるような内容もあり、新鮮で、刺激的な内容もあり、実臨床にとりいれることもあり。

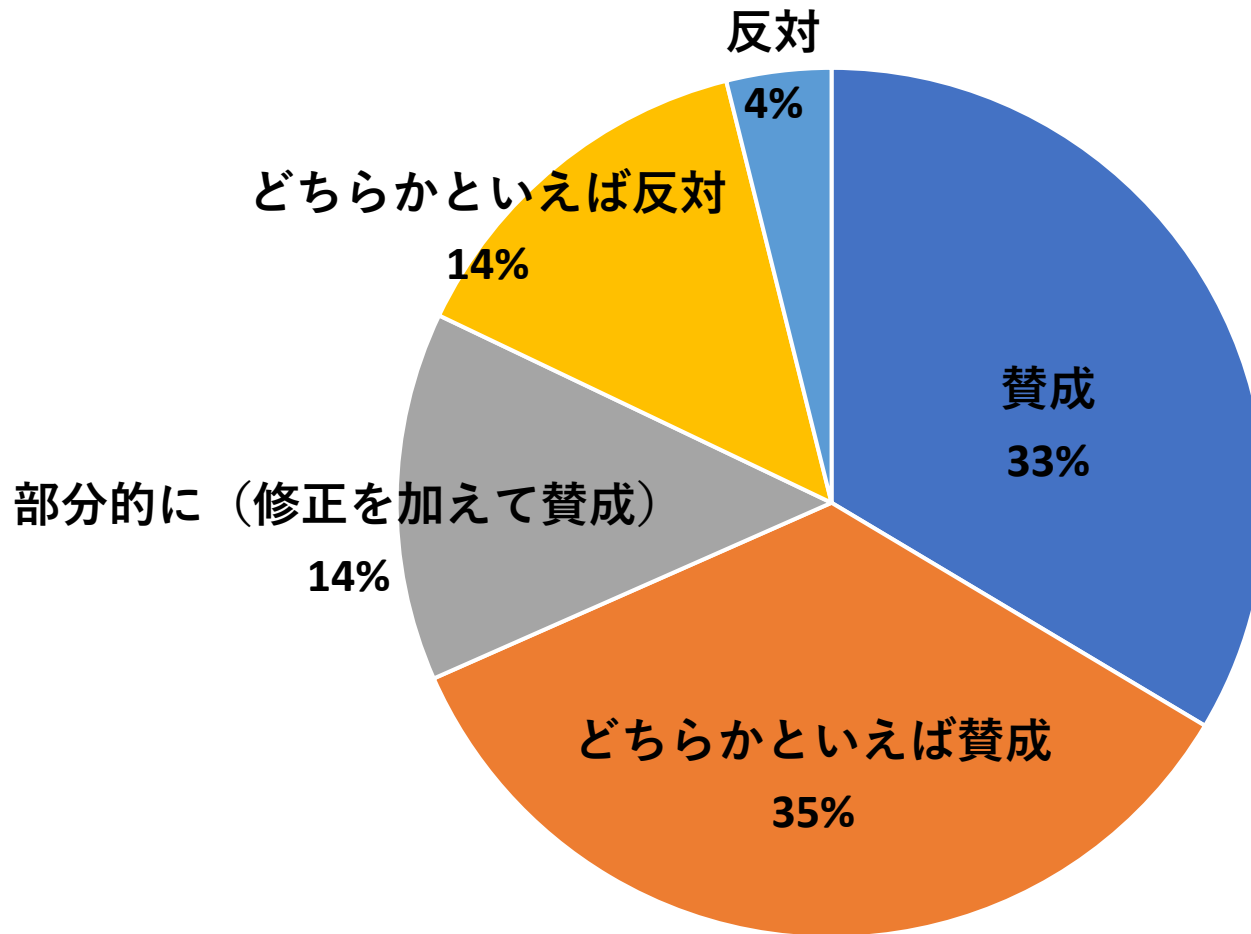
若手が参加しにくい。
男性参加者が多く、女性の会員も多いその他の学会に比べ、子育て世代などへの配慮が少ないと思う。

外科学会は日本全体の外科の在り方に関する議題が多い
(それが本来外科学会のあるべき姿と思います)

17.日本外科学会定期学術集会と他の全国規模の学会総会で議論される内容や形式には、差別化が必要だと思いますか？

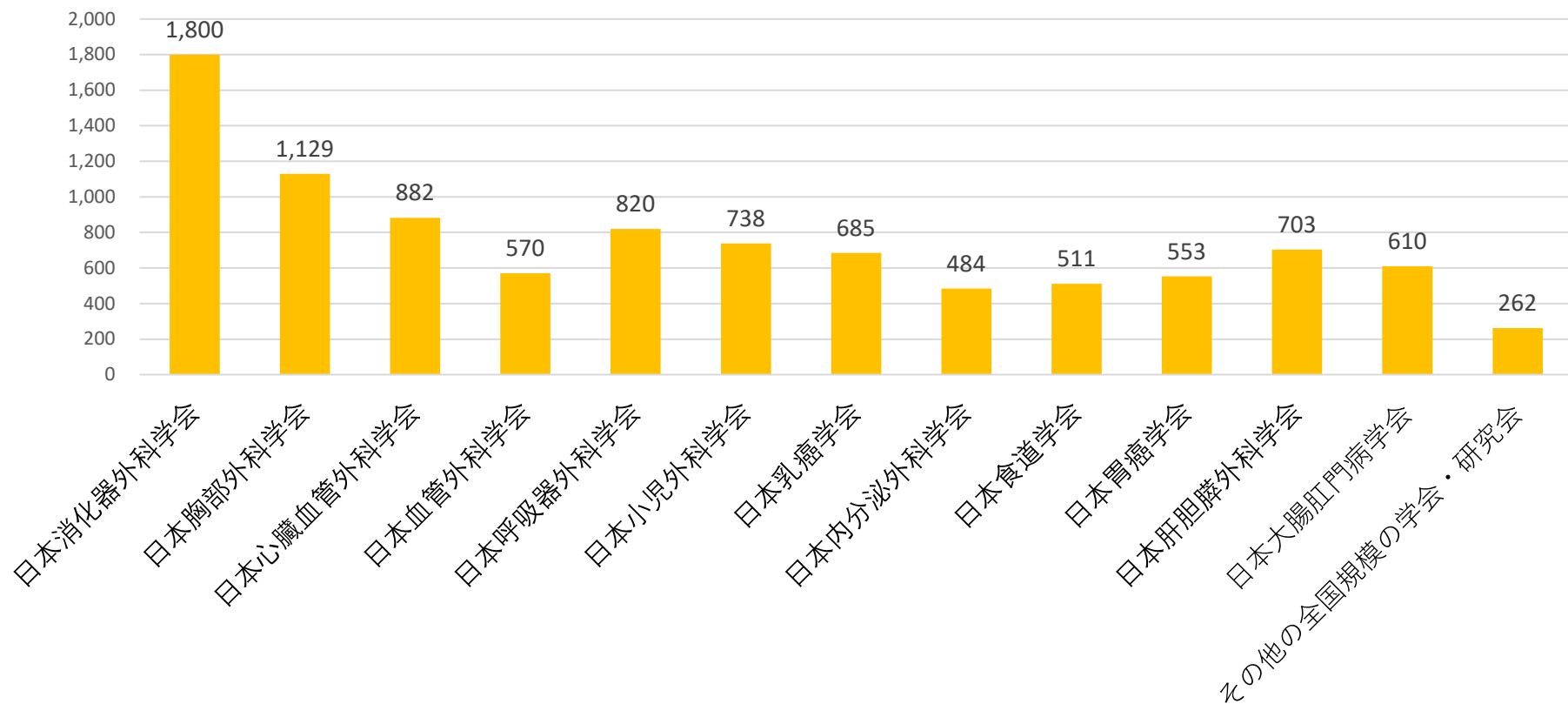


18. “Surgical Week（仮称）”として日本外科学会と他の全国規模のサブスペシャリティ学会総会のプログラムを合同化して同時開催することについてどう思いますか？



19. “Surgical Week（仮称）”として日本外科学会と同時期開催するとしたら、どの学会との同時期開催が望ましいと思いますか？（複数回答可）

(名)



20. 今後に向けてご意見をお書きください。

- 多数に上る学会を効率的に統合し、その専門医制度や各種資格の付加価値を高めていく方向性が望まれる。
- 合同開催なら圧倒的に多い消化器外科だけやればよいその他は少数であり外科学会での合同開催はそぐわない。
- Surgical Weekとなると、複数の発表準備を同時に行わなければならない、発表回数が減ってしまうことが懸念される。
- Surgical weekとして全てをまとめてしまうと、院内に残る外科医に数が少なくなり、臨床現場に支障が生じる気がします。
- 資格更新用の講習などはまさにオンラインが良い。
- WEB参加の場合は、参加費を半額程度にしてほしい。
- 現地開催に戻すべきと考えます。
- コメディカルセッションを強化してください
- 医学生が外科に興味をもち、外科医を目指すような工夫を考えてもらいたい。